

(別紙4-1)

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000229		
法人名	社会福祉法人 北見睦会		
事業所名	グループホームかがやきの里むつみ5号館・6号館		
所在地	北見市端野町端野25番2		
自己評価作成日	平成24年11月30	評価結果市町村受理日	平成25年2月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったり、少しずつ、自分らしく、ありのまま…」を運営理念に掲げ、利用者様に尊敬を持って、その人らしく暮らせるように、お手伝いさせていただいています。緑豊かな広々とした施設の中で、家庭的で和やかに、ご自分で出来ることは、ご自分でやっていただく、出来ないところをお手伝いさせていただき、利用者様が安心して穏やかに過ごすことができるよう、心の通ったケアを行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action.kouhyou\\_detail.2012.022.kani=true&JigvovsoCd=0195000229-0](/index.php?action.kouhyou_detail.2012.022.kani=true&JigvovsoCd=0195000229-0)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年1月18日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かがやきの里むつみ5号館・6号館は、名前の通り多くの福祉事業所を運営する睦会が2009年6月に前株式会社から引き継ぎ開設されたグループホームで、小規模多機能事業所が併設されており、自由に行き来出来る平屋建てとなっています。地域の町内会に加入しており相互の行事で交流や、運営推進会議への出席、避難訓練の参加協力等を得て良好な関係を構築しています。又、町内の保育所や、小学校の慰問がありお遊戯、吹奏楽演奏や、子供たちが、利用者の中に入り手遊びをして交流し楽しい時間を過ごしています。事業所も地域を大切に考え、毎日の食材や、利用者の日用品の買い物は地域スーパー、商店での購入に配慮しており、相互の深い関係が築かれています。法人は職員の研修に力を入れており毎年外部講師を招きながら多くの講座を開き教育に取り組みながら、技術の向上と、サービスの質の向上に努めています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス、ミーティング等での話し合い、管理者と職員はその理念で共有し、利用者様の支援を実施している。	法人全体の理念である、「ゆっくり、少しずつ、自分らしく、ありのままに」をホールに掲示し、管理者、職員は介護時には常に振り返り、利用者本位の支援に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様が地域のイベント等に交流できるよう事業所自体が日常的に交流している。	町内会に加入して相互の焼き肉会等の行事に参加したり、保育園や小学生の慰問があり地域とよく交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内に設置している理念を基に認知症の人の理解、取り組み状況等について報告、話し合いを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議等で利用者様の状況を報告し、サービス向上に取り組んでいます。	年6回偶数月に併設の小規模多機能事業所と合同で、利用者家族、高齢者相談センター職員、自治会役員等の出席を得て開催しています。参加できない家族には議事録を送付して、情報を共有して運営に役立てています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の研修等に参加し、ケアサービスにおいては、スタッフ等に伝えている。	市担当者には内部研修の講師を依頼したり、解らない事があればすぐに問い合わせをしたりして、日常的に連絡を密にし協力関係を構築しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等積極的に参加し、職員全員で身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止についての研修は母体の法人で毎年行われ、弊害について理解をしています。以前は家族の承諾のもとベットでの転落防止柵を取り付けていましたが、職員で話し合いはせず取り組みを行っています。又、玄関の施錠は夜間のみとなっており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、研修等で学び理解し、職員全員で防止し取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度自体があまり知られていないため、学ぶ機会が少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族等密に話し合い、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族の意見要望は、出来る限り反映させる様努めている。	利用者家族の意見や要望は面会や行事の時の来訪時に会話の中でや、電話での報告時に把握し運営に反映するように努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを行い、スタッフ等の意見、考えを常日頃聞き反映している。	管理者は毎月の合同会議の中や、各ユニット会議の中で職員の意見や要望を聞いたり、総合施設長による個人面談もあり、運営に反映するように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事に対する姿勢、意欲等向上心を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流に、勉強会、相互訪問し良いところを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の発する言葉、行動等を共感し、不安を解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、要望等の訴えに耳を傾け、不安が解消できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族が納得できるまで話し合い、必要としている支援にこたえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中、利用者様の表情からくみ取り支援し、安心して過ごせるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、イベント来所の際、ご家族とのコミュニケーションを図りながらともに利用者様本人の支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人への電話、手紙等を支援したり、来訪した際写真を撮ったり喜んでいただけるよう心がけている。	利用者の友人や知人の来訪時には写真撮影をしたり、電話を掛けたり、手紙を書く等の支援をして関係継続の支援を心掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士より良い関係が作れるようスタッフが介入しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても必要な時にすぐ支援できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフに対し自己開示していただけるようなコミュニケーションや声かけに配慮している。	利用者一人ひとりの思いや意向は、家族の話の中からや、本人との会話の中から把握するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルを作成し、スタッフ間でも情報の共有を図っている。また利用者様本人やご家族から情報を得た場合にも生活記録や連絡ノートを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	Bb, 食事、水分摂取量、排泄状態を記録し、特変時はスタッフ全員に申し送りをして状態を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの意見、利用者様のお話を聞き、身体、精神状態に合わせてカンファレンスにより介護計画を作成している。	毎月2回のカンファレンス会議で利用者の状況を話し合い、介護計画は変動の少ない時は、基本的に3ヶ月で見直しをして、現状に合った計画作成をしています。	職員全員が、利用者一人ひとりの介護計画について、情報が共有出来る体制構築を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録により利用者様の状態を把握し、月2回のカンファレンス会議にて介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族の状況を把握し、希望に沿うよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、保育園、小学校の訪問や、スーパー等の買物が利用できるよう支援し、包括との連携をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の希望をお聞きし、希望に沿うよう定期受診の支援を行っている。	利用者のかかりつけ医を尊重して受診支援を行っています。受診後には家族に報告をして安心に繋がっています。協力医の往診を受けている利用者もおり健康に留意した支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師が一人常勤しており、看護師と連携を取りながら利用者様の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早期退院に向け医療機関と情報交換や相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の研修やご家族と医療機関と話し合いチームで支援に取り組んでいる。	利用契約時に重要事項説明書にて重度化の対応や、看取りについての説明をし、理解を得ています。職員は法人の内部研修を受けており関係者と情報共有をして取り組む体制を取っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、急変や事故発生時に備えている。訓練を定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を年2日、地域の方々の協力を得て実施している。問題点がある時はその都度話し合っている。	年2回5月、9月に小規模多機能事業所と合同で日中、夜間想定火災避難訓練を実施しています。地域住民には、外部での避難場所への誘導と見守りの役割をお願いしています。	夜間想定火災避難訓練は実施していますが、参加できない職員がおり更なる訓練の実施と、その他の災害を想定した対策構築を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、気持ちを傷つけないよう配慮している。記録については、人目に触れないようにしている。	管理者、職員は個人記録保管や、利用者への声掛け等プライバシーに配慮した対応を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を出しやすい関係を築く様努力し、ご本人がしたいことを決めたり、行ったりできるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切に、その人らしく暮らせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様やご家族の方と相談しながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態に応じた仕事を職員とともに行っています。	一週間分のメニューを作成し、近所のスーパーに発注し、職員が調理しています。食材は前日に配達され新鮮なものを使い、利用者の健康に配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減や薬の状況に合わせてひとりひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方はスタッフがを行い、自分で出来る方もスタッフが付き添い声掛け、毎食後行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック等でパターンを把握し、介助においてもトイレ使用を継続できるよう支援をしています。	利用者一人ひとりの排泄記録をとり、パターンを把握して時間誘導をし、自立に向けて取り組んでいます。トイレには背もたれがあり、楽な姿勢がとれるように工夫されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々水分量、運動等配慮し、排泄ない時の与薬対応等看護師に報告し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り利用者様の希望に添えるよう努力している。	週2回から3回希望に合わせて入浴できるように支援しています。拒否する利用者には日を変えたり、気分を変えるようにしたり、清拭で対応したりしています。又、下着は毎日交換して清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣、活動状況を把握して安心して休息できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ひとりひとりの服薬の内容を把握しており、与薬時には2人対応にて誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの生活歴や力に応じた役割や楽しみ事ができるよう工夫し支援しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴、ドライブ等ひとりひとりのその日の希望に沿っていつでも戸外に出かけるよう支援しています。	散歩、前庭での外気浴、スーパーでの買い物、ドライブとその日の状態や、気分に合わせて外出するよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとりひとりの希望や理解に応じてご家族の方と相談をしながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には常時使用できる状態にあり、求められれば手紙等の代筆等支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けなどし、清掃を心がけひとりひとりが落ち着いて過ごせる空間を作っている。	居間には利用者が作成した貼り絵や習字、折り紙で、季節ごとの飾り付けがなされ心を和ませています。又、温湿度には配慮をしています。特に冬期間は加湿器を四方に設置して乾燥しないように心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースを広く設け、自由に過ごせるようにしている。場合によっては席替え等もやっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みのものを自由に置き、危険がなにか職員も注意を心がけ居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者の居室には使い慣れたベット等の家具や好みの絵や写真が飾られ、居心地良く暮らせるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの身体機能を活かし、安全に自立した生活が送れるよう支援している。		